

尼崎 21 世紀の森構想エリアにおける「共創」による まちづくりの推進について

1. 背景

■尼崎 21 世紀の森構想 先導期、展開期を経て、これから概成期へ

- 先導期（10 年）：拠点地区の整備、緑化の推進、中央緑地での森づくり
- 展開期（20 年）：拠点地区を中心とした森や運河の活用、参画と協働の推進
- 概成期（50 年）：これまでのハード・ソフト両面での実績、参画と協働の取組を通じて築いてきた主体間のつながりを生かしながら、森構想エリアの新たな価値を多様な主体が共に生み出す段階へ

■「参画と協働」から「共創」へ

- 行政計画に基づく取組に多様な主体が加わり一緒に進めていく「参画と協働（Participation and collaboration）」から、発想段階から多様な主体がともに考え、新たな価値やアイデアを生み出す「共創（Co-creation）」という考え方への移行

■森構想に基づく取組の現状

- 森（中央緑地等）、運河（北堀運河キャナルベース等）、まち（工場、エリア各地）、それぞれのフィールドで各主体が取組を進めるとともに、主体間で連携した協働の取組を実施している
- 森構想 20 年で蓄積されてきた取組実績、主体間のつながりをいかして、生物多様性保全、環境学習、観光振興、企業連携などといった様々な取組へと展開しつつある

2. 共創によるまちづくりの推進の目的

①目的

- 森構想のテーマである「森と水と人が共生する環境創造のまち」の実現に向けた将来像や取組イメージを、森構想にかかわる多様な主体がともに考え、形にして示すことで共有し、ともに取組んでいく機運を高める。

②共創によるまちづくりの推進イメージとして示す内容（案）

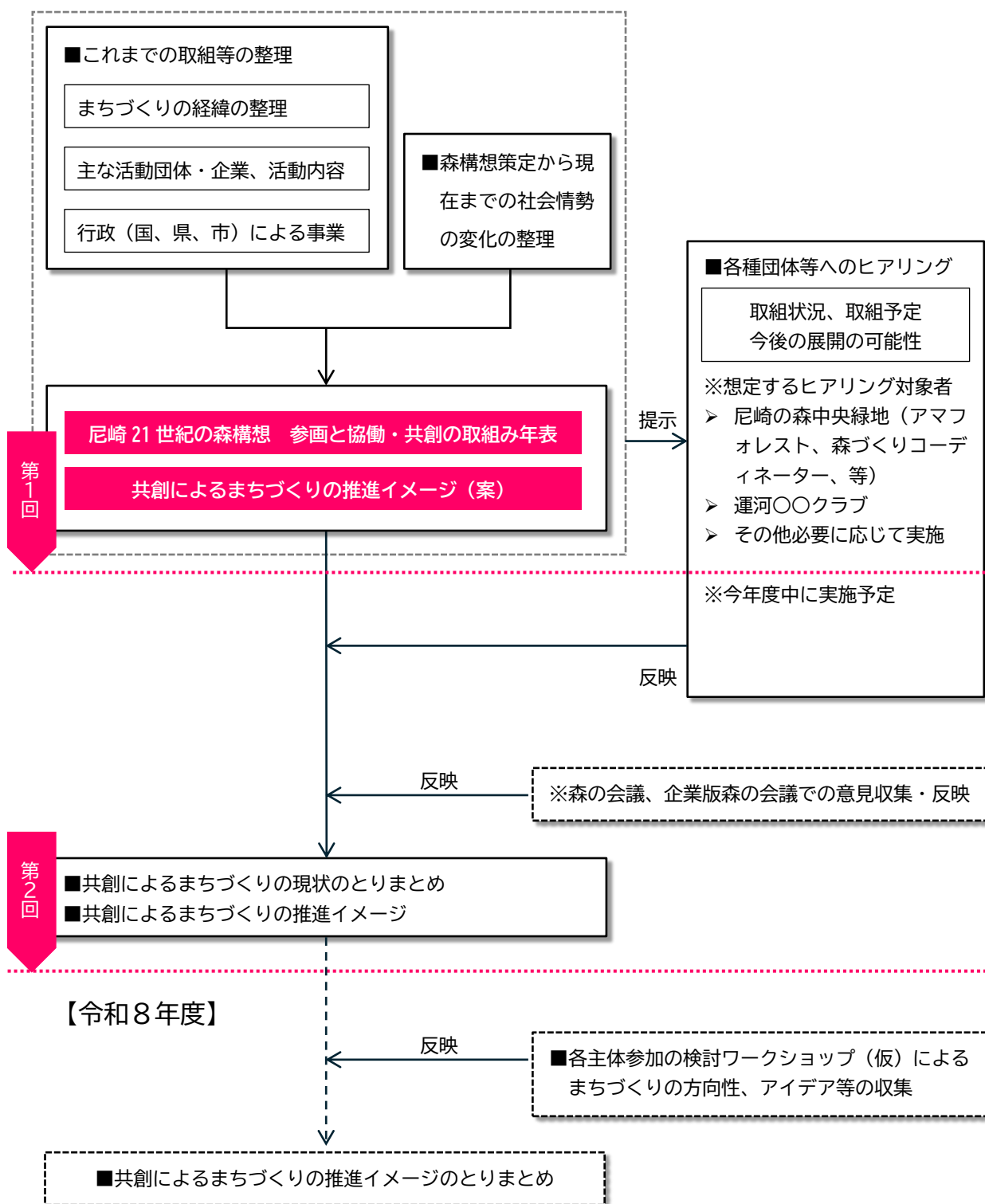
- 共創の取組を進めていくためのプラットフォームのあり方
- 森構想にかかわる主体やプロジェクト等の多様なつながりのイメージ
- 継続的に新たな価値やアイデアを生み出すしくみづくり 等

3. 本協議会における検討の進め方

令和7年度：これまでの取組状況を整理し、共創によるまちづくりの推進イメージについて検討

令和8年度：関係者との検討ワークショップ等を通じて共創によるまちづくりの推進イメージとしてとりまとめ

【令和7年度】



尼崎 21 世紀の森構想 参画と協働・共創の取組み年表（案） 森づくり

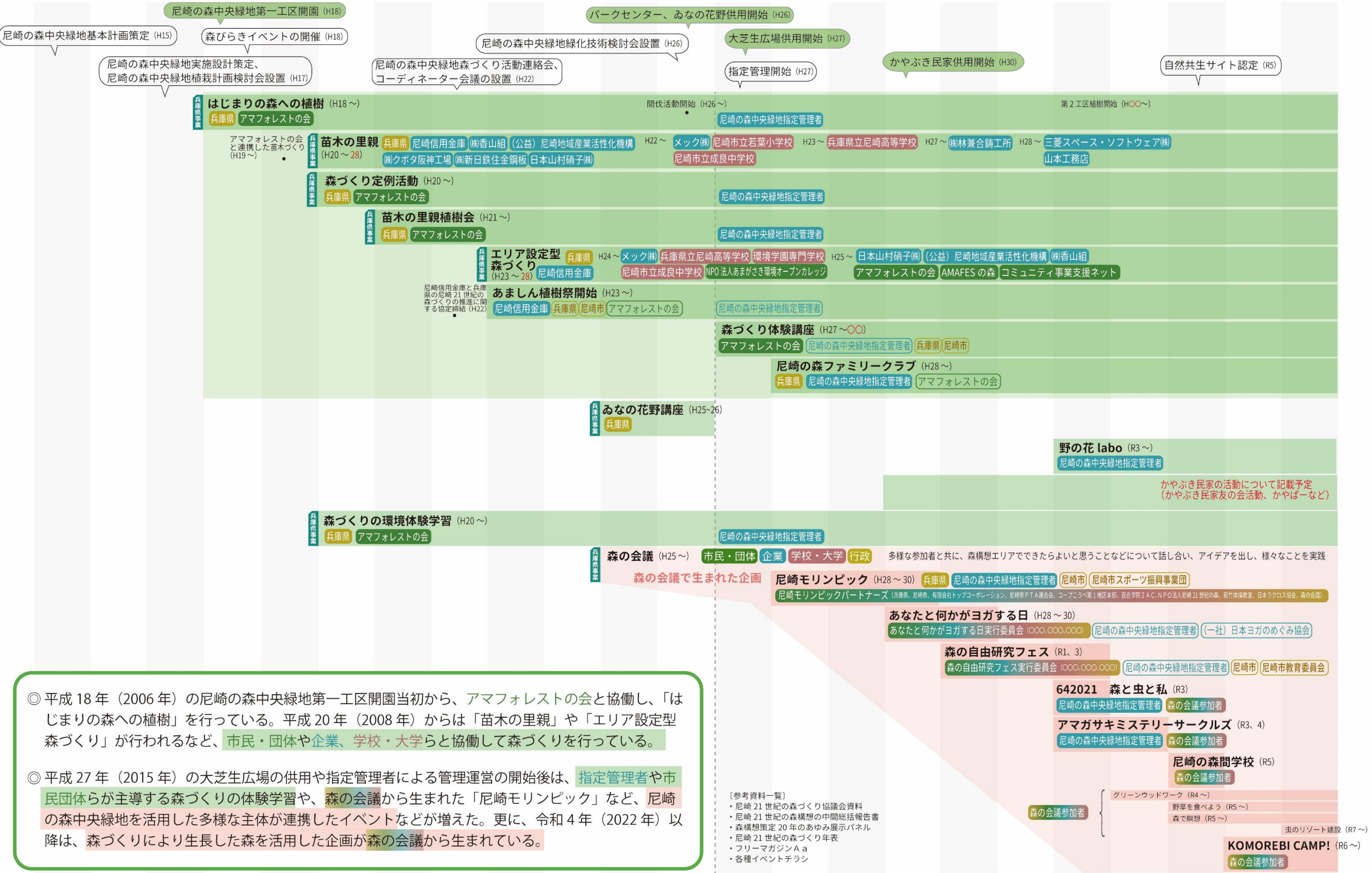
主な活動者
イベントの主催など

市民・団体 企業 学校・大学 行政

活動の協力者
イベントの後援など

市民・団体 企業 学校・大学 行政

H14 2002 H15 2003 H16 2004 H17 2005 H18 2006 H19 2007 H20 2008 H21 2009 H22 2010 H23 2011 H24 2012 H25 2013 H26 2014 H27 2015 H28 2016 H29 2017 H30 2018 R1 2019 R2 2020 R3 2021 R4 2022 R5 2023 R6 2024 R7 2025 R8 2026

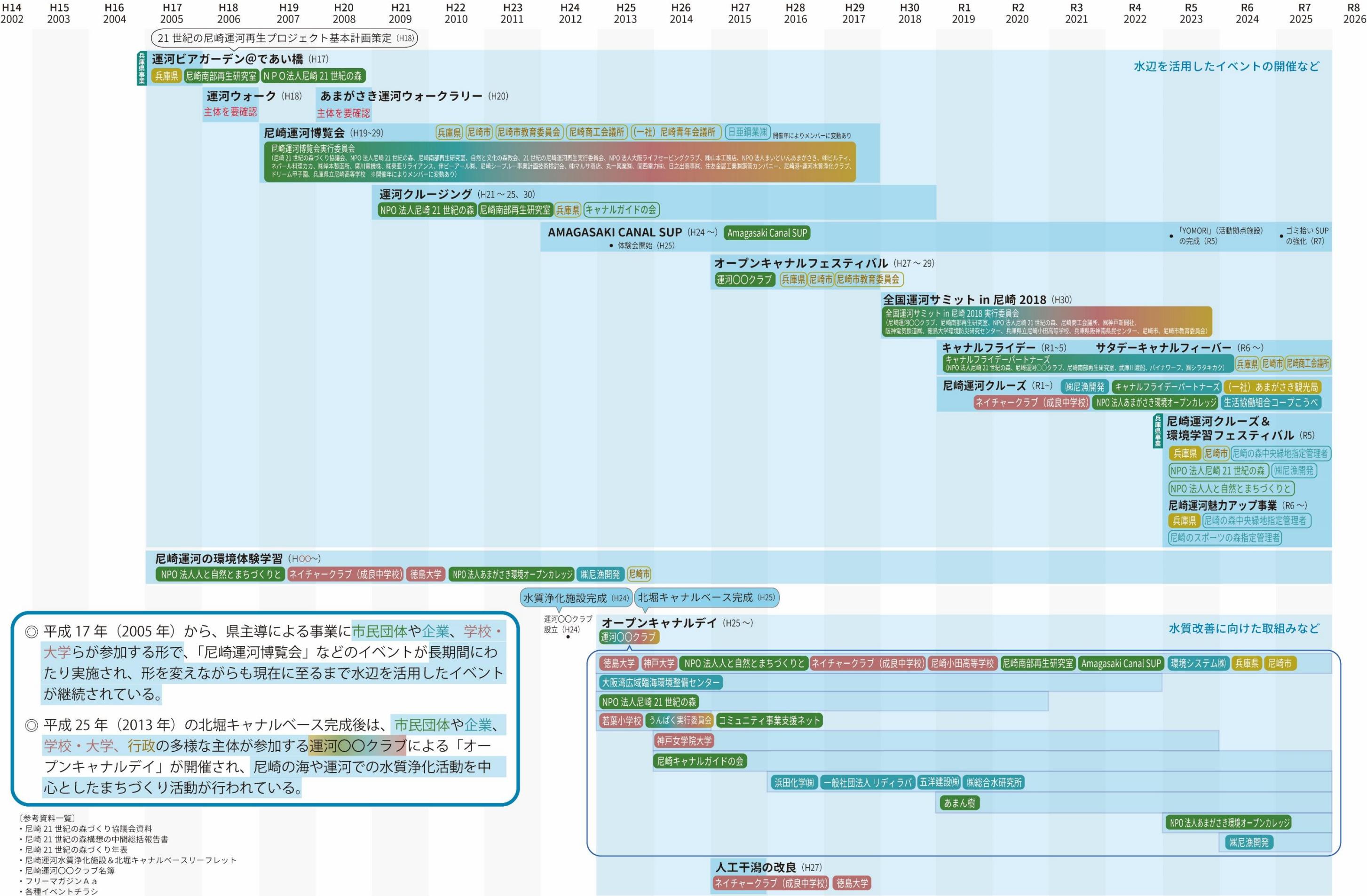


- ◎ 平成 18 年（2006 年）の尼崎の森中央緑地第一工区開園当初から、アマフォレストの会と協働し、「はじまりの森への植樹」を行っている。平成 20 年（2008 年）からは「苗木の里親」や「エリア設定型森づくり」が行われるなど、市民・団体や企業、学校・大学らと協働して森づくりを行っている。
- ◎ 平成 27 年（2015 年）の大芝生広場の供用や指定管理者による管理運営の開始後は、指定管理者や市民団体らが主導する森づくりの体験学習や、森の会議から生まれた「ニ崎モリンピック」など、ニ崎の森中央緑地を活用した多様な主体が連携したイベントなどが増えた。更に、令和 4 年（2022 年）以降は、森づくりにより生長した森を活用した企画が森の会議から生まれている。

尼崎 21 世紀の森構想
 参画と協働・共創の取組み年表（案）
 水辺・運河

主な活動者
 イベントの主催など
 市民・団体
 企業
 学校・大学
 行政

活動の協力者
 イベントの後援など
 市民・団体
 企業
 学校・大学
 行政



- ◎ 平成 17 年（2005 年）から、県主導による事業に市民団体や企業、学校・大学らが参加する形で、「尼崎運河博覧会」などのイベントが長期間にわたり実施され、形を変えながらも現在に至るまで水辺を活用したイベントが継続されている。
- ◎ 平成 25 年（2013 年）の北堀キャナルベース完成後は、市民団体や企業、学校・大学、行政の多様な主体が参加する運河〇〇クラブによる「オープンキャナルデイ」が開催され、尼崎の海や運河での水質浄化活動を中心としたまちづくり活動が行われている。

【参考資料一覧】
 ・尼崎 21 世紀の森づくり協議会資料
 ・尼崎 21 世紀の森構想の中間総括報告書
 ・尼崎 21 世紀の森づくり年表
 ・尼崎運河水質浄化施設 & 北堀キャナルベースリーフレット
 ・尼崎運河〇〇クラブ名簿
 ・フリーマガジン A a
 ・各種イベントチラシ

尼崎 21 世紀の森構想 参画と協働・共創の取組み年表（案） まちづくり

主な活動者
イベントの主催など
市民・団体 企業 学校・大学 行政

活動の協力者
イベントの後援など
市民・団体 企業 学校・大学 行政

H14 2002 H15 2003 H16 2004 H17 2005 H18 2006 H19 2007 H20 2008 H21 2009 H22 2010 H23 2011 H24 2012 H25 2013 H26 2014 H27 2015 H28 2016 H29 2017 H30 2018 R1 2019 R2 2020 R3 2021 R4 2022 R5 2023 R6 2024 R7 2025 R8 2026

尼っこりんりんロード整備 (H18)

スポーツの森開園 (H18)

尼崎 21 世紀の森 SDGs 賞の創設 (R4～)

兵庫県事業

フォーラム (H14～20、22)

主体を要確認

兵庫県事業

まちあるき (H15～17、22～24)

武庫川町～拠点地、丸島地区 (H15)、尼宝線～中堀運河、夜の臨海地域、自転車道 (H16)、築地地区 (H17)、鉄工団地 (H22)

主体を要確認

兵庫県事業

緑化の取組み

- 元浜花壇植付け (H16)
- 尼崎南部グリーンワークス設立 (H16)
- 尼崎鉄工団地協同組合と連携した緑化活動開始 (H16～)

- 工場緑化勉強会開始 (H17～〇〇)
- 元浜花壇植え替え (H17)

- 工場緑化検討会開始 (H18～〇〇)
- 尼宝線道路予定地の沿道緑化 (H18)
- 元浜花壇修了式 (H18)

- すき間緑化と緑のまちづくりフォーラム開催 (H19)

- すき間緑化勉強会の開催 (H20)

- すき間緑化勉強会の開催 (H21)
- すき間緑化ハンドブック作成 (H21)
- 沿道緑化アピールサインの設置 (H21)
- 尼崎鉄工団地感謝状贈呈 (H21)
- 尼崎 21 世紀の森型工場緑化ガイドブックの作成 (H21)

- 「尼崎市工場立地法の特例措置及び景観と環境に配慮した工場緑化等の推進に関する条例 (市準則条例)」施行 (H22)

- すき間緑化でみどりのまちづくりリーフレット作成 (H23)
- 「尼崎市工場立地法の特例措置及び景観と環境に配慮した工場緑化等の推進に関する条例 (市準則条例)」改正 (H23)
- 尼崎鉄工団地協同組合が「第 1 回あましんグリーンプレミアム環境活動部門賞」受賞 (H23)
- 尼崎南部グリーンワークスが「尼崎市のまちかどチャタリング賞 (都市美形成活動部門)」受賞 (H23)
- 日本ビューム㈱との緑化連携 (H23)

- 尼崎南部グリーンワークスが、第 14 回人間サイズのまちづくり賞「花と緑のまちづくり部門」受賞 (H24)
- 工場緑化 H24:6.1% (臨海部の緑被率が、近年は横ばい気味。) (H24)

- 工場緑化の検討会 (H29)

- 「緑も水辺も育む賞」の創設 (H30～R3)

兵庫県事業

環境関連イベント・セミナー (H20,22)

兵庫県 関西電力㈱ 尼崎商工会議所

兵庫県事業

サマーフェスタ (H21～22)

主体を要確認

エコキッズメッセ (H22、H24～R1)

エコキッズメッセ実行委員会 (0000.0000.0000) あまがさきモリニック実行委員会

養蜂事業 (H22～) ●「第 1 回あましんグリーンプレミアム」環境活動部門賞 (H23)

尼崎 21 世紀の森・ミツバチプロジェクト実行委員会 (尼崎鉄工団地協同組合、兵協・尼協・阪神共同体、尼崎市、兵庫県阪神南県民センター)

巣箱を尼崎の森中央緑地第 3 工区に移設、森の会場で養蜂事業紹介 (巣箱見学・試食等) (R2)

『尼みつ』が「尼みやげ認証商品」に選定 (R5)

キャナルガイド (H25～)

尼崎キャナルガイドの会 尼崎市

阪神南ふれあいフェスティバル (H25)

阪神南ふれあいフェスティバル実行委員会 (0000.0000.0000)

森の文化祭 (H28～)

森の文化祭実行委員会 (兵庫県、尼崎市、社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会大任支部、尼崎の森中央緑地パークセンター) NPO 法人コミュニティ事業支援ネット

尼崎スポーツの森開設 10 周年記念事業イベント (H28)

尼崎のスポーツの森指定管理者 主体を要確認

尼崎ナゾ解きゲーム 龍神の怒りをしずめろ (H29)

NPO 法人人と自然とまちづくりと あまん樹 学習教室こかげ 新興化学(株) ㈱クボタ ㈱ニプロン

再発見 『阪神なぎさ回廊』 サイクル&ウォークロゲイニング (H30)

兵庫県 尼崎のスポーツの森指定管理者

尼崎市コミュニティサイクルの実証実験 (H30)

兵庫県 尼崎市 共同事業体 (㈱阪神ステーションネット、シナネンサイクル㈱、OpenStreet ㈱)

環境学習フォーラム (R6)

兵庫県 尼崎市

NPO 法人人と自然とまちづくりと

尼崎の森中央緑地指定管理者

環境学習フェア (R7)

兵庫県 兵庫県阪神南青少年本部 尼崎市

NPO 法人人と自然とまちづくりと

尼崎の森中央緑地指定管理者

兵庫県事業

森の会議 (H25～)

市民・団体 企業 学校・大学 行政

多様な参加者と共に、森構想エリアでできたらよいと思うことなどについて話し合い、アイデアを出し、様々なことを実践

森の会議で生まれた企画については、

森づくり の年表を参照。

企業版森の会議 (R6～)

企業 行政 市民・団体

企業、行政、市民団体と共に森構想エリアの魅力の発信について考える

◎ 平成 14 年（2002 年）の森構想策定策定後は、行政主導による工場緑化などの事業が主な取組みであったが、平成 22 年（2010 年）からは「エコキッズメッセ」や「養蜂事業」など市民・団体や企業主導による取組みが見られるようになっている。

◎ 平成 25 年（2013 年）からは、主に市民らが集まり、森構想エリアでやってみたいことを話し合い試行する「森の会議」、令和 6 年（2024 年）からは、主に企業が集まり、尼崎臨海地域の魅力の発信について考える「企業版森の会議」を開始。これまでに様々なアイデアが実践されている。

◎ 令和 6 年（2024 年）からは、多様な主体が一堂に会する環境学習フェアが開催されるなど、各主体がそれぞれの活動拠点を超えてつながる機会が見られはじめています。

〔参考資料一覧〕

- ・尼崎 21 世紀の森づくり協議会資料
- ・尼崎 21 世紀の森構想の中間総括報告書
- ・尼崎 21 世紀の森づくり年表
- ・環境学習フェア 202 尼崎キャナルガイドの会発表資料
- ・フリーマガジン A a
- ・各種イベントチラシ
- ・尼崎 21 世紀の森ウェブマガジンレポート
- ・各取組みのホームページ
- ・研究発表論文集 32（ランドスケープ研究 77 巻 5 号）

5. 共創によるまちづくりの推進イメージ（案） ～多様な主体間連携やプロジェクトが広がるイメージ～

- ・既存のプラットフォームやプロジェクトをきっかけに、各主体あるいはプラットフォーム同士がつながり、新たなプロジェクトが生まれる。
- ・森構想エリアにおけるプラットフォームやプロジェクトの広がりや、森づくり協議会で共有・発信し、取組の展開をサポートする。
- ・各プラットフォームは、継続するものもあれば、その時々状況により必要に応じて生まれ消える可変的なものであり、これに応じて協議会での議題や参加者も柔軟に対応可能な体制とする。

森構想エリア外でのプロジェクトの実施

- 例)・森構想に関する取組の PR
- ・県内各地の県立公園等との連携
- ・運河の再生や活用に取組む他都市事例との連携



森構想エリア外のプラットフォームとの連携によるプロジェクトの実施

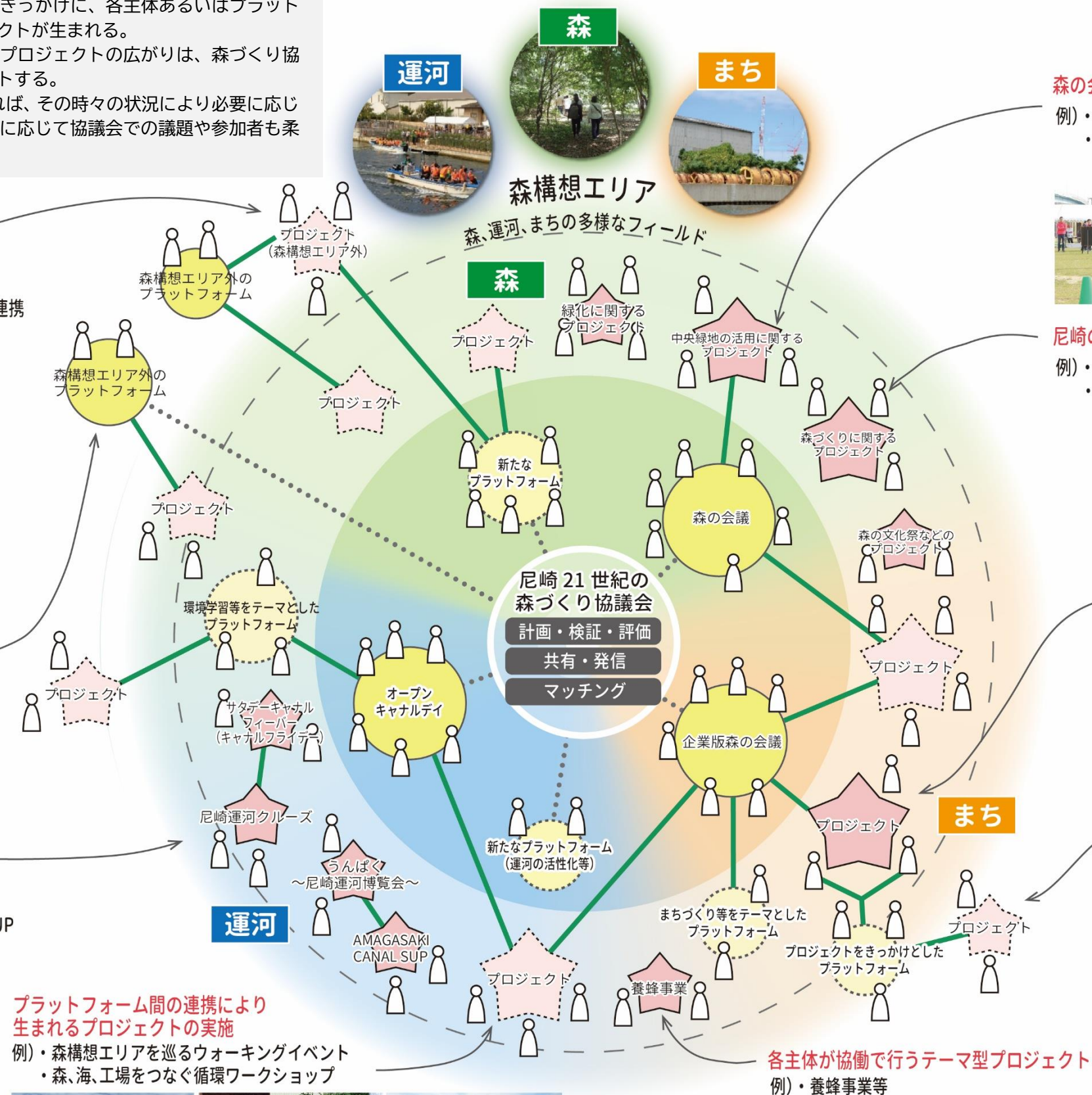
- 例) ・近隣市等と連携した観光振興
- ・オープンファクトリー
- ・環境学習フィールドとしての受け入れ
- ・みんなの尼崎大学(尼崎市)との連携

協働によるプロジェクトをきっかけとした
新たなプロジェクトの実施

- 例) ・サタデーキャナルフィーバー
・尼崎運河クルーズ ・AMAGASAKI CANAL SUP

プラットフォーム間の連携により
生まれるプロジェクトの実施

- 例)・森構想エリアを巡るウォーキングイベント
- ・森、海、工場をつなぐ循環ワークショップ



森の会議から生まれたプロジェクトの実施

- 例) ・あまがさきモリンピック
・こもれびキャンプ 等



ニ崎の森中央緑地での森づくりに関するプロジェクト

- 例) ・はじまりの森の育成
・苗木の里親、森づくり活動、エリア設定、あましん植樹祭等



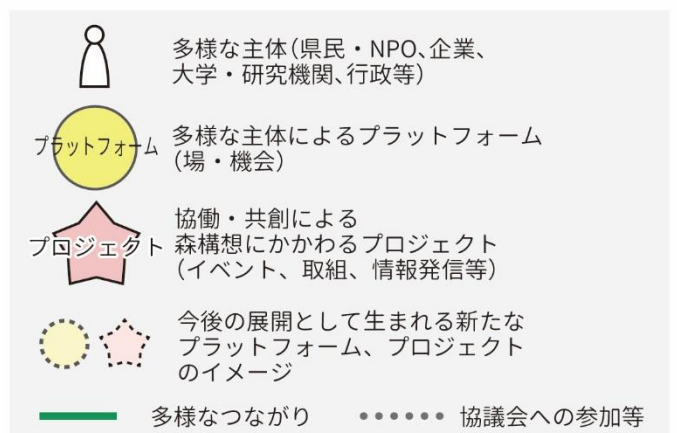
企業版森の会議から生まれた プロジェクトの実施

- 例)・環境学習フェアでの企業共同企画の実施



プロジェクトをきっかけとした参加者同士の
連携による別のプロジェクトの実施

- 例) ・企業間連携による新事業の実施
- ・企業と学校の連携による環境学習の実施




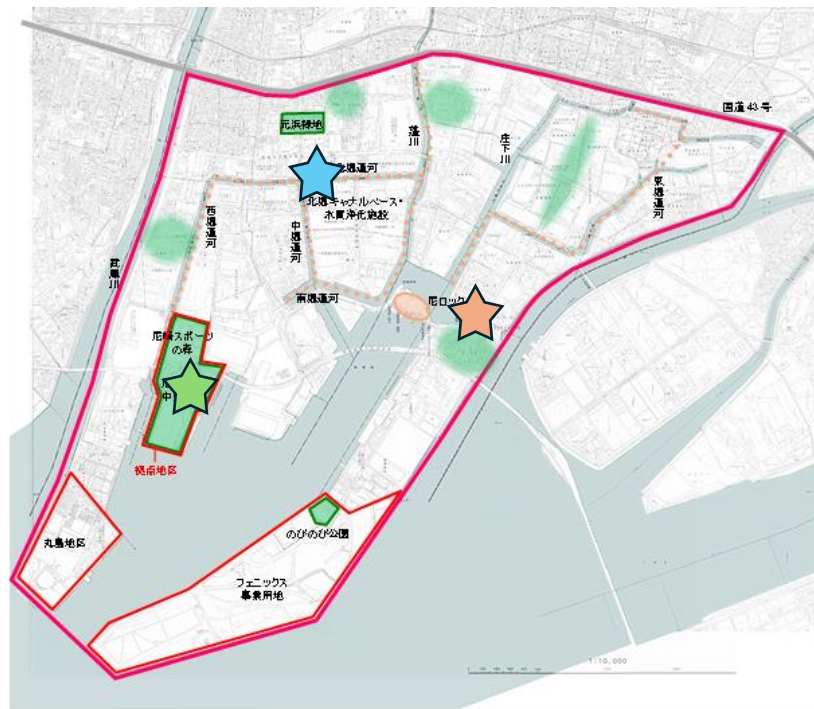
②共創によるまちづくりの取組イメージ

森構想エリアにおける共創による取組の展開（イメージ）

当初～（イメージ）

- 尼崎の森中央緑地において、森づくりに関する取組を継続的に実施。
- 北堀チャネルベースを中心に、運河の利活用に関する取組を継続的に実施。
- 企業による敷地内緑化（県民まちなみ緑化事業の活用、すきま緑化等）に関する取組を実施。


 森構想エリアの特性をいかした協働による活動等

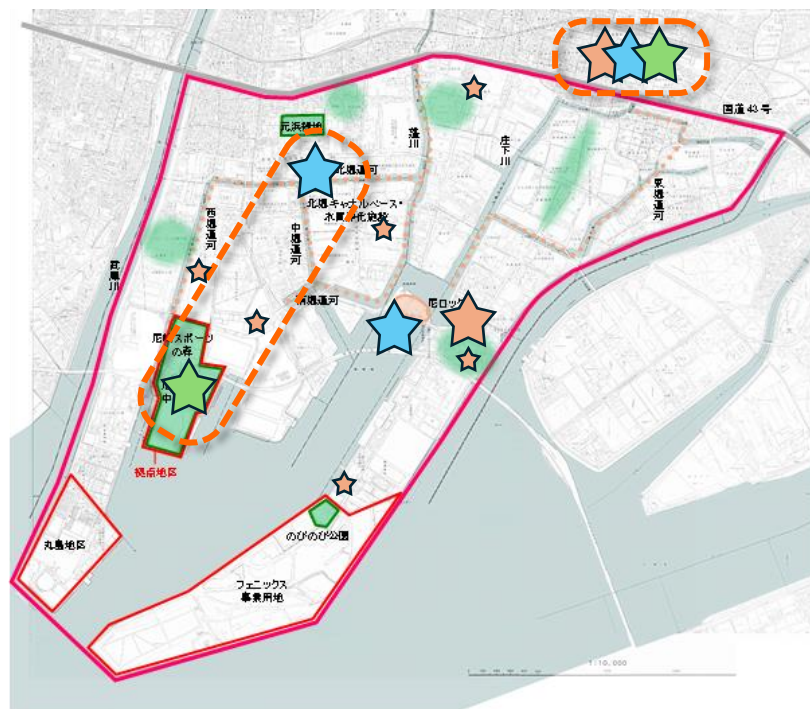


拠点施設（中央緑地や北堀チャネルベース）を中心に共創の取組が展開され、森構想エリア全体では限定的。

現在（イメージ）

- 森（中央緑地）と運河が連携し、各フィールドで活動している各主体の共創によるイベント等を実施（運河魅力アップイベント等）。
- 企業版森の会議を通じて、企業間連携による取組を実施。



 森構想エリアの特性をいかした協働・共創による活動等

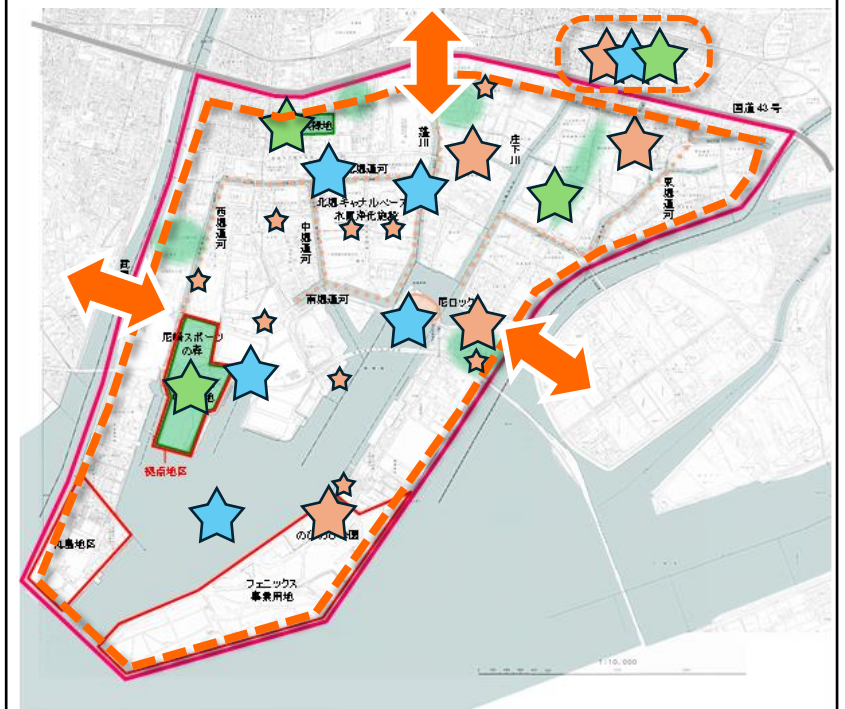


森と運河の連携や企業連携による取組が実施され、共創の取組が森構想エリア全体へと広がる兆しがみられる。

将来（イメージ）

- 森、運河、まちといった多様なフィールドをいかして、共創の取組が森構想エリアの各地で実施され、さらには森構想エリア外へと取組が広がっている。

 森構想エリアの特性をいかした共創による活動等
 森構想エリア内外で連携した活動等



多様なフィールド・主体が連携し、森構想エリアの各地及び森構想エリア外へ共創の取組が広がる。